

HUM200 文化資源論

2年 1,2クォーター

担当教員	東村 純子
授業形態	講義
アクティブ・ラーニング	該当しない
単位数	2

授業概要

文化資源 (Cultural Resources) とは人間が生み出してきた多様な文化の総体を資源として捉え、よりよい社会実現のために有効に活用していこうとする新しい概念である。

Cultural Resources の本義は、多岐にわたる人文系資料の一元化にあり、地域で発掘、あるいは伝承された史資料の調査を通して、現在から将来世代のための活用手法を見出す必要がある。本講義では人文系資料の資源化のプロセスを概説し、地域社会における文化資源のもつ有用性、行政や住民と一体となった地域文化創生の可能性について検討していく。

到達目標

文化資源の概念を理解し、その多面的な意義を学ぶ。地域の各種資源について、調査研究、活用公開のプロセスを知る。文化資源を活用し、どのような社会が実現できるのかについて理解を深める。

先修科目

教科書・参考資料等

《参考書》青木豊他編『博物館と観光 社会資源としての博物館論』雄山閣出版、2018年
石川徹也他編『つながる図書館・博物館・文書館 デジタル化時代の知の基盤づくりへ』東京大学出版会、2011年

授業の方法

担当教員は講義を行い、定期的に課題を与える。適宜、少人数グループでのディスカッションを行い、双方向性を意識する。

成績評価

学生は、講義での課題について小レポートにまとめ、提出する。また、グループ・ディスカッションを積極的に行う。

成績

- 30% 定期の小レポート
- 20% 授業中のディスカッションの状況
- 50% 期末試験

授業スケジュール

第1回：文化資源の定義

文化資源とはなにか、その現代的意義を考えることで、講義全体の目標を共有する。

第2回：文化政策の歴史的転回と文化資源

日本の文化財行政をはじめとする文化政策の歴史を振り返る。文化資源という概念がいかにして生まれてきたのか、その今日的課題について概説する。

第3回：文化財・文化遺産マネジメント 保存から活用へ

国内外の世界遺産や日本遺産等に見る文化政策の現状について概観し、地域の文化財の活用がより重視されていることを概説する。

第4回：社会的資源としての人文系資料

これまで組織別に系統化されていた博物館・図書館・文書館の資料を、社会的資源として一括管理する意義、その方策について概説する。

第5回：人文系資料の資源化プロセス

人文系資料の収集、調査研究から活用までのプロセスについて実践例を紹介し、その手法について検討する。

第6回：人文系資料の資源化の事例（一）学際的意義

多様な学問領域にわたる人文系資料の資源化の意義について、具体的な事例をもとに分野横断的に考える。

第7回：人文系資料の資源化の事例（二）地域における役割

地域における人文系資料の資源化の役割について、博物館・図書館・文書館などの関連施設の実地見学を通して理解する。

第8回：文化資源と観光

地域の文化財・文化遺産を観光資源として活用する取り組みについて、国内外の事例をもとに概説する。

第9回：文化資源と教育（ESD：持続可能な開発のための教育）

地域の文化財・文化遺産を教育資源として活用する取り組みについて、国内外の事例をもとに概説する。

第10回：福井の文化資源（一）事例の紹介

福井の歴史・文化遺産を観光資源や教育資源として活用する事例を紹介する。

第11回：福井の文化資源（二）まちづくり

福井の歴史・文化遺産を活用した地域づくり・まちづくりについて実地見学を踏まえて考える。

第12回：文化資源と身体（一）技術の継承

身体化された知識や技法について実技を交えた体験を通して理解し、技術継承などの課題について検討する。

第13回：文化資源と身体（二）社会的運用

身体化された知識や技法を「身体資源」として社会運用する手法について具体的な事例をもとに考える。

第14回：文化資源と災害

災害時の文化資源の保全や災害後の継承について概説する。

第15回：文化資源の継承と人間社会の理解

これまでの内容をまとめ、社会の持続的発展に向けた文化資源の意義を考える。

事前・事後学習

- ① 上記に挙げた参考書や授業中で予習用に配布する資料を、事前の一読すること（1時間程度）。
- ② 講義内容を復習し、理解を深めること。また、授業中に指示する課題についてレポートをまとめること（1～2時間程度）。